

## H28WG の指摘事項について

No.	指摘事項	対応方針・結果等
1	<b>DOC</b> 藻類の種類の違いで分解溶存物がちがうか。(清家委員)	【方針】 ・ No. 8 の難分解性有機物の調査研究の継続にあたり、単離培養した藻類の分解物の DOC を含め分析する考え。
2	<b>シジミ</b> シジミが水質に何をしているか？有機物捕食に伴う貧酸素化の緩和が起きないか？(山室委員)	【結果】 ・ 「貧酸素水塊の体積」と「シジミ資源量」についても解析したが、資料 2 - 2 のとおり相関はみられなかった。
3	<b>モデル</b> 境界条件、水温の鉛直分布について躍層の有無は？(中田委員)	【結果】 ・ 資料 2 - 3 (鉛直分布のグラフ 1 年分) のとおり。
4	<b>濁水調査</b> 越流水の際、ダム上流側に沈殿していたものが流出し、濃度上昇することが想定されるので、その視点ももって(中田委員)	・ ダム上流側が地理的に採水不可の為、実施できない。
5	<b>データ</b> 大橋川の観測値について、あんなに変動するものか疑義あり(中田委員)	【方針】 ・ 陸水学会の論文を各委員あて参考送付する(資料 2 - 4、石飛ら, 1999)。
6	<b>モデル</b> 鉛直拡散係数、小さすぎると疑義あり。(中村座長)	・ 受託者(横浜国立大学)において対応中。
7	<b>モデル</b> プランクトン種を複数に(中田委員)	・ モデルのパラメータとの根拠が確かでない状況で、代表種の選定は困難。 ・ プランクトン種毎に水温など各項目の経時変化グラフ(レビューP25)を作成・整理し、相関等が見られた種を、代表種の候補とする。 ・ 上記作業進捗の都度、大谷先生と協議の上、進めていく。

8	<p><b>アオコ</b> 判別式、Z2 で計算の上、例年の日照との比較とかも加味してはどうか。 (大谷委員)</p>	<p><b>【結果】</b></p> <p>① 水温と全天日射量の相関を見たところ、80日の移動平均で相関が最も高かった。そこでこの値を水温の代わりに用いた。(以下日射80とする)</p> <p>② 一月前の水温の代わりに一月前の日射80(日射80_1)を用いた判別式を作成した。</p> <p>全天日射量データ(松江)は9年分のデータがあったので、この9年の判別を行った。</p> <p>Z1' 及び Z2' は下記のとおり。</p> $Z1' = 0.000744(CI\_0) + 0.00105(CI\_2) - 0.0592(\text{日射 } 80\_1) - 2.76 (p=0.12)$ $Z2' = -0.000677(CI\_1) + 0.00163(CI\_2) + 0.732(\text{日射 } 80\_1) - 15.3 (p=0.12)$ <p>この9年のアオコ発生3件、未発生6件は正確に判別できたが、判別式 Z1'、Z2' は有意ではなく、各パラメータの係数や符号が異なるためにあまり正確ではないと思われる。</p> <p>よって、今後もこれまでの判別式を運用したい考え。</p> <p>(詳細は、資料2-5)</p>
9	<p><b>難分解性</b> 単離培養したものでも(大谷委員)</p>	<p><b>【方針】</b> 今後の難分解性有機物の調査研究においては、単離培養したものも対象とする考え。</p>